

1 題材名 「動くデザイン ～Viscuit を使った四季のデザイン～」

2 指導観

- 本題材は、発想や構想の能力を高めることを目的とし、中学校の3年間の美術の学習のカリキュラムの中に位置付けて構成している。発想や構想の能力を高めることは、デザインの分野のみならず美術科の全領域の学習において必要な資質・能力の育成につながる。表現と鑑賞をバランスよく設定し、表現においては絵を描くことが苦手な生徒や、絵の具などの道具を使う技能に関わらず、思い描いたイメージを制作し、伝えることができるよう ICT を活用する。鑑賞においては、参考作品や参考資料などを用いて発想を形や色彩、材料や光などの造形の要素の働きや造形的な特徴などを基にして、心に思い浮かべる像や情景、ある物事について抱くイメージなどを捉えるために必要となる造形的な視点を理解させることができる。本題材では、身近な生活の中にある季節のよさや美しさに気付き、伝えたいイメージを設定し、季節らしさを形や色彩、模様など、それらの構成が感情にもたらす効果を生かしながら他者に伝わるデザインを表現させるものである。また、造形的な視点を持つことで、それまで気付かなかったよさを感じ取ることができ、発想や構想の能力を高めることができると考えられる。
- 対象学年の生徒への令和元年6月に実施した美術学習の実態や意識調査の結果によると、美術を学習することで、形や色彩などの性質や感情の効果を理解できるようになると思うと答えた生徒が88%いる。一方で、色の効果を生かすポスターなどのデザインが苦手であると答えた生徒は60%いる。さらに、いつも自然にアイデアが出てくると答えた生徒は13%であり、美術を苦手と考えている生徒の多くはアイデアが出てこないことが原因であると考えている。また、美術の発想や構想の能力を問う実技課題では、イメージマップを作成し、イメージマップで言語化したものを基にテーマを決め、そのテーマに沿って実際に表現を行わせる、という三つの段階を設定して評価を行った。最終段階では具体的にはすべり台のデザインを描くというものであったが、このデザインの中に教師が設定した四つの視点をどれだけ取り込めたかを評価したところ、この四つの視点すべてを含めたすべり台を描いていたのは全体の3%しかおらず、1つも描けない生徒が31%いた。また、初期段階のイメージマップの数やイメージの階層の深さで評価したところ、最終段階の上位と下位との明確な相関関係が認められた。このことから、発想する段階でイメージを持てずに、イメージを膨らますことができない生徒は最終的に表現ができない現状がある。
- 「視覚で感じる四季のデザイン」という題材名で授業を展開する。第一次においては基本的な操作方法の習得と参考作品の鑑賞を行い、実際に「Viscuit」で何ができるか、ソフトを使い体験をさせる。その中で表現するための方法に気付き、考えたり、工夫したりする体験を積み重ねながら知識を習得させ、自分がイメージした動きを表現できるようにする。第二次では、一次において得た知識を基に、「Viscuit」で作品制作を行う。思い描いたイメージを実際に表現し、試しながら構想し、生徒用支援ツールを活用しながら試行錯誤し、表現させる。第二次におけるツールの役割は、発想力や構想力を高めるための参考資料閲覧、作品を鑑賞する交流活動支援である。また、教師は教師用ツールを用いて、生徒が発想や構想を広げることができるように、全体への作品提示を行うことや、個別に制作へのアドバイスなどの支援を行う。第三次では、発想や構想の能力の高まりを確認するために鑑賞会を行う。鑑賞会は生徒がパソコン画面を見ながら移動する形式をとる。生徒は作品の良さや美しさを味わうとともに、対話を通して交流を行い、自分の学習の振り返りを行いながら作品から感じたことを記録させる

3 目標

- わかりやすさを考え、形や色の特徴を生かし、制作の順序などを考えながら意図に応じて表現することができる。 【知識及び技能】

- イメージを効果的に伝えるための、色・形・動きなどの組み合わせの構想を練ることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
- 自然の美しさや季節の彩りなどに興味を持ち、造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練り、コンピュータの特性を生かしたりしようとしている。
【学びに向かう力】

4 題材計画（総時間4時間）

支：学習支援ツール(CMS) V：Viscuit(ビスケット) ワ：ワークシート

段階	配時	学習活動・内容	使用する開発教材(◆) 教材のねらい(○) 活用の留意点(・)
導入	50	<p>(1) Viscuit と出会う</p> <p>○ Viscuit の機能、使い方やメガネの仕組みを知り、実際に試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Viscuit の操作方法習得 <p>○ ツールの使い方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ログイン方法 ・メニューの説明 	<p>◆支：「制作」メニュー、参考作品の提示</p> <p>◆V：Viscuit(ビスケット)で制作</p> <p>○参考作品の提示によって、表現への関心・意欲を持つことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Viscuit の扱い方を習得できるようにする。 <p>○生徒が動かしてみたいと考えたイメージを試し、作り方を確認できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Viscuit 作品の提示から、作り方への情報に素早くアクセスすることができるようにする。
展開	50	<p>(2) 表現したい主題をつくりだす。</p> <p>○教師から Viscuit の技とその技を利用した参考作品を鑑賞する。</p> <p>○季節のイメージを絵や言葉で表現する。</p> <p>○言語化したキーワードから主題を決定し、アイデアスケッチする。</p> <p>○Viscuit で作品制作を行う。</p>	<p>◆支：参考作品の提示</p> <p>◆ワ：ワークシート①</p> <p>◆V：Viscuit で制作</p> <p>◆支：「発想」「制作」メニュー</p> <p>○目標設定のイメージを持ち、季節のイメージの言語化やアイデアスケッチを描くことで構想を練り、主題を明確にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節のイメージが浮かばない生徒は学習支援ツールの「参考資料」を見ることでそこから言語化できるようにする。
	50	<p>(3) 交流活動などによって発想を広げ、主題を追求し制作に取り組む。</p> <p>○少人数による交流活動を行い、様々な見え方、感じ方に気付く。</p> <p>○季節感を表す意図が伝わる表現方法を考え、試行錯誤をしながら、イメージに近づけるよう制作する。</p>	<p>◆ワ：ワークシート①②</p> <p>○季節を表現するために工夫した所（色・形・動き）について自分の意図を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンモニターに映し出された友達の作品のよさや工夫点を記録させる。 <p>◆V：Viscuit で制作 ◆支：(画像や動画)提示</p> <p>○季節感の伝わりやすさを意識して作品の制作を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想が広がらない生徒への個別のアドバイスを行い、作品の制作を促す。
終末	50	<p>(4) 鑑賞活動を行う。</p> <p>○作品を鑑賞し合い、互いの作品のよい点、工夫点を見付け、今後の自分の表現の参考になるところを考える。</p>	<p>◆ワ：ワークシート②</p> <p>◆支：アンケート機能</p> <p>○作品のよさや美しさを味わうとともに、自分の学習を振り返ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「色・形・動き」の観点で書かせることで、作品の持つ特徴や良さに気付かせる。

終末	<p>◆V : Viscuit (ビスケット) で制作を行う。</p> <p>◆教 : 参考作品の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンモニタに一斉送信 <p>★【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>表現方法を追究するために、多様な表現を積極的に試行しているか。</p> <p>(行動観察・ワークシート)</p>	一斉	5
<p>まとめ Viscuit で重要なことはメガネの使い方 (左から右) を覚えることである。それに回転機能を付け加えることで動きに変化をつけることができる。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、次時からの作品制作の見通しを持つ。</p> <p>○四季を表現する作品制作を行うことを知る。</p>	<p>○ツールのアンケートを記入する。</p> <p>○本時で学んだ基礎的な知識・技能を振り返り、作品制作のイメージを持つ。</p>		

評価基準			評価方法
A : 十分満足	B : おおむね満足	C : 努力を要する生徒	
自ら進んでコンピュータでのデザインを行い、表現意図に応じて色・形・動きの造形の要素すべてに着目して美しく効果的な表現をすることができる。	コンピュータでのデザインに興味を持ち、色・形・動きなどの造形の要素のうち2つに着目して、造形的な視点で制作を行うことができる。	色・形・動きなどの造形の要素のうち1つに着目して、制作を行うことができる。	成果物 (練習した Viscuit 作品) 様相観察 アンケート
		指導の手だて	
		基本的な操作方法は学習支援ツールを参考にするよう指導する。どのような表現をしたいか分からない生徒へは簡単な課題を出すことで Viscuit の使い方を覚えさせる。	

5 本時 (2/4時)

令和元年〇月〇日(〇) 第〇校時(2年〇組) 於: コンピューター室

6 主眼

色・形・動きを工夫して組み合わせることで、Viscuit を使った季節のイメージを作り出すことができる。

7 準備

① ワークシート NO.1 ②タブレット (教師用) ③ホワイトボード ④プロジェクター

8 本時の展開

段階	学習活動・内容	使用する開発教材(◆) 教材のねらい(○) 活用の留意点(・) 評価規準 (★)	形態	配時
導入	1 参考作品を鑑賞し、作品制作の見通しを持つ。 ○教師から VISCUIT の技とその技を利用した参考作品を鑑賞する。 ○季節を表現するために必要なことは何かを考え、近くの人と交流する。	◆ 教 : 参考作品の提示 ○前時に学んだ Viscuit の技法を想起するとともに、目標設定のイメージを持たせる。	一斉	5
	2 本時のめあてを知る めあて Viscuit を使い、色・形・動きを組み合わせ、季節らしさを表現しよう		一斉	5
展開	3 表現したい主題をつくりだす。 ○季節のイメージを絵や言葉で表現する。(ワークシートに記入) ・季節のイメージの言語化 ○言語化した季節のイメージを色・形・動きのパターンに当てはめて考える。 ○言語化したキーワードから主題を決定し、動きや形などをアイデアスケッチする。 ○Viscuit のクラスの部屋について知る。	◆ 教 : 参考作品の提示 ◆ ワ : ワークシートに記入 ◆ 生 : 「発想・構想」メニュー 【発想・構想を高める手立て】 ワークシートの活用により、思考を可視化することで発想を刺激させる。 ○季節のイメージが浮かばない生徒はツールの「参考資料—自然」を見ることで言語化させる。 ○技法や参考作品を提示することで、季節のイメージを言語化させる。 ◆ ワ : ワークシート ○アイデアスケッチを描くことで構想を練り、主題を明確にさせる。 【発想・構想を高める手立て】 見直しや修正が容易にできる VISCUIT の活用により、試行錯誤しながら表現させる。	個別	10

終末	<p>○Viscuit の機能を試していく中で、発想を得て構想を練り、主題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Viscuit での制作 	<p>★【思考・判断・表現】</p> <p>季節感を出すために、色・形・動きを組み合わせ、季節のイメージを Viscuit で表現することができているか。</p> <p>(ワークシート・作品)</p>	個	25
	<p>4 友人の作品などを鑑賞する。</p> <p>○多様な表現方法に気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メガネの活用 ・半透明の色使い 	<p>◆V: Viscuit (ビスケット) で制作</p> <p>◆生: 「発想・構想」「制作」メニュー</p> <p>○「色のイメージ」…言葉から色のイメージを検索させる。「参考資料—自然」「参考資料—人工」「参考資料—その他」…画像資料・動画資料を閲覧させ、季節のイメージを想起させる。「Viscuit の技」…Viscuit の技を動画で紹介し、使い方を身に付けさせる。</p> <p>○「発想・構想」メニューにすすみ、参考資料を呼び出し、「クラス」メニューで友達の作品を見ることで知識を得て発想を広げさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの生徒の作品を見ることはしても、他者の作品に変更を加えたりはさせない。 <p>◆教: 授業支援ツール</p> <p>○作品(画像や動画)の提示し多様な表現方法に気付かせる。</p> <p>○ タブレットを用いて個別のアドバイスをすることや、拡大して全体に提示することで、自分なりの四季のイメージを持たせる。</p>	一斉	5
<p>まとめ 季節感を表現するためには、季節が持つイメージを色・形・動きに整理して、変化を加えることで、季節感を伝えることができる。</p>				

評価基準			評価方法
A: 十分満足	B: おおむね満足	C: 努力を要する生徒への指導の手だて	
<p>季節の持つイメージを造形的な視点で捉え、色・形・動きの3つの要素をすべて組み合わせて構想することができる。</p>	<p>季節の持つイメージを考え、色・形・動きの3つの要素のうち2つを組み合わせて構想することができる。</p>	<p>季節の持つイメージを、色・形・動きの3つの要素のうち1つで考えることができる。</p>	<p>ワークシート 成果物(作品) 様相観察</p>
		<p>指導の手だて</p>	
		<p>学習支援ツールにある季節の参考資料を参照するよう指導し、色・形・動きの変化に着目させて季節感を感じ取らせる。</p>	

5 本時 (3/4時)

令和元年〇月〇日(〇) 第〇校時(2年〇組) 於: コンピューター室

6 主眼

Viscuit を使って、自分の表現意図を基に、表現方法を工夫し、イメージした動きを作り出すことができる。

7 準備

① ワークシート ② タブレット (教師用) ③ ホワイトボード ④ プロジェクター

8 本時の展開

段階	学習活動・内容	使用する開発教材(◆) 教材のねらい(〇) 活用の留意点(・) 評価規準 (★)	形態	配時
導入	1 交流活動などによって発想を広げ、主題を追求し制作に取り組む。 ○少人数による交流活動を行い、季節表現の工夫したところを伝え、様々な見え方、感じ方に気付く。 ・少人数交流	◆ ワ : ワークシート ○季節を表現するために工夫した所(色・形・動き)について交流活動を行わせる。 ○交流活動を通じて、季節の表現がより効果的に伝わる方法を考えさせる。 ○友人の発想や構想を鑑賞することで、新たな表現や自分の表現に足りないところに気付かせる。 ★【知識・技能】 Viscuit 作品の交流において、わかりやすさを考え制作することができるか。 (作品、ワークシート)	班	10
	2 本時のめあてを知る。 めあて 色や形を工夫して季節感がより伝わる、動くデザインを制作しよう!		一斉	5
	3 Viscuit による動くデザインの制作を行う。 ○季節感を表す意図が伝わる表現方法を考え制作する。 ○試行錯誤をしながら、イメージに近づけるよう制作を行う。	【発想・構想を高める手立て】 Viscuit の活用により、見直しや修正が容易にでき、試行錯誤しながら表現できる。 ★【思考・判断・表現】 季節のイメージを効果的に伝えるために、色・形・動きなどを組み合わせて構想を練ることができるか。 (作品、ワークシート) ◆ V : Viscuit (ビスケット) で制作 ○季節感の伝わりやすさを意識して作品の制作を行わせる。 ◆ 生 : 「発想・構想」「制作」メニュー ○様々なアイデアに触れることで次のアイデア	個	35

<p>4 本時の学習を振り返り、次時からの作品制作の見通しを持つ。 ○生徒作品を鑑賞する。</p>	<p>を出す試行錯誤を促す。 ○四季のイメージが伝わるように表現することで自分の考えに自信を持たせる。 ◆教：(画像や動画) ○発想が広がらず、構想できない生徒への個別のアドバイスをを行い、作品の制作を促す。 ・制作が進まない生徒に対して、机間指導を行うなかで、教師が直接アドバイスをを行う。 ◆教：授業支援ツール ○作品(画像や動画)を提示し多様な表現方法に気付かせる。</p>	<p>一斉</p>	<p>5</p>
<p>まとめ 季節感を表現し伝えるためには、見る人の立場に立って、季節の要素を「色・形・動き」に変化を加えて伝わりやすさを工夫することが重要である。</p>			

【知識・技能】 評価基準			評価方法
A：十分満足	B：おおむね満足	C：努力を要する生徒	
<p>Viscuit 作品の交流において、自分や他者の作品のよさに気づき、作品のよさや思いを感じ取り、相手に伝えることができる。 自分の作品に対するアドバイスから修正すべき点を意識して制作できる。</p>	<p>Viscuit 作品の交流において、自分の作品のよさを他者に伝えることができる。 自分の修正すべき点を意識して制作できる。</p>	<p>Viscuit 作品の交流で作品を提示することはできるが、意図を伝えることができない。 指導の手だて Viscuit 作品の交流会では形と色における評価の観点を具体的に資料で提示する。</p>	<p>ワークシート 様相観察 (交流活動) 成果物(作品)</p>

【思考・判断・表現】 評価基準			評価方法
A：十分満足	B：おおむね満足	C：努力を要する生徒	
<p>季節の持つイメージを造形的な視点で捉え、色・形・動きの3つの要素をすべて組み合わせて構想することができる。</p>	<p>季節の持つイメージを考え、色・形・動きの3つの要素のうち2つを組み合わせて構想することができる。</p>	<p>季節の持つイメージを、色・形・動きの3つの要素のうち1つで考えることができる。 指導の手だて 学習支援ツールにある季節の参考資料を参照するよう指導し、色・形・動きの変化に着目させて季節感を感じ取らせる。</p>	<p>ワークシート 成果物(作品) 様相観察</p>

5 本時 (4/4時)

令和元年〇月〇日(〇) 第〇校時(2年〇組) 於: コンピューター室

6 主眼

作者の表現意図と創造的な工夫について考えることができる。

7 準備

① ワークシート ② タブレット (教師用) ③ ホワイトボード ④ プロジェクター

8 本時の展開

段階	学習活動・内容	使用する開発教材(◆) 教材のねらい(○) 活用の留意点(・) 評価規準 (★)	形態	配時
導入	1 今までの学習を振り返り 本時のめあてを知る。	◆ 教 : 授業支援ツール ○作品(画像や動画)を提示し、これまでの学習において、季節のイメージを表現するために、色・形・動きの3つの要素が重要であることを確認させる。	個	5
展開	2 作品の仕上げを行う。	◆ ワ : ワークシート (デジタル) ○鑑賞の際、作者の意図を画面に表示する目的で記入する。季節感を表すために工夫したところを「色」「形」「動き」などの言葉で伝える準備をさせる。 ◆ V : Viscuit (ビスケット) ○作品の鑑賞時間は30秒から1分程度とし作品の仕上げを行わせる。 【発想・構想を高める手立て】 ・Viscuit の活用により、見直しや修正が容易にでき、試行錯誤しながら表現させる。 ・鑑賞会をひらくことで友達の発想のよさに気づき、ワークシートに記録することで、発想の視点に気づくことができる。	個	15
	3 鑑賞会を行う。	鑑賞会の持ち方 鑑賞会はパソコン上に Viscuit の画面を出し、生徒が巡回する。 ・パソコン画面上には、作品(Viscuit)と作品説明文を表示する。 ・生徒は巡回しながら作品の鑑賞を行い、ワークシート(紙)にメモをとる。 ・作品鑑賞後、ツールのアンケート機能を使い、3人を投票する。	一斉	25
終		★ 【思考・判断・表現】 自然の美しさや季節の彩りなどに興味を持ち、作品のよさをみつけ味わうことができているか。 (作品、ワークシート)		

末	4 学習をまとめ、振り返る。	<p>◆生：「各クラス」メニュー</p> <p>◆V：Viscuit（ビスケット）</p> <p>◆ワ：ワークシート</p> <p>○作品のよさや美しさを味わい、自分の学習を振り返り感想を記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想の能力を高めることで、次の課題へ向かう経験として蓄積される。 <p>◆教：授業支援ツール(画像や動画)</p> <p>○完成作品だけでは伝わらない制作の途中経過などを提示することで、作者の表現の変化に気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの作品を提示する。 	個	5
<p>まとめ 形や色彩などの造形の要素の働きによって、様々な季節の表現を知ることができ、見方や感じ方を広げることにつなげることができた。</p>				

評価基準			評価方法
A：十分満足	B：おおむね満足	C：努力を要する生徒	
<p>Viscuit 作品の鑑賞において、色・形・動きの3つの要素すべてから、自分や他者の作品のよさに気づき、自分や他者の作品のよさや思いを感じ取り、それを相手に伝えることができる。</p>	<p>Viscuit 作品の鑑賞において、色・形・動きの3つの要素のうち2つから、他者の作品のよさをみつけることができる。</p>	<p>Viscuit 作品の鑑賞において、色・形・動きの3つの要素のうち1つから、他者の作品のよさをみつけることができる。</p> <p>指導の手だて</p> <p>Viscuit 作品の交流会では形と色における評価の観点を具体的に資料で提示し、自分の修正すべき点は交流会の内容を参考にしよう指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・様相観察(交流活動) ・成果物(作品)